

「福島原発事故後の健康異常」

2015年09月29日

「東北ヘルプ」の川上直哉牧師から福島県や近隣県の健康調査の結果報告が送られてきた。その一部を掲載したい。原発事故後、子どもを中心に健康調査報告が種々の団体から出されていた。そして、どの報告も甲状腺癌や、その疑いが高いという数値を示していた。ところが、原発事故との関係が濃いと主張する報告と、因果関係ははっきりしないという報告が混在している。川上牧師からの「背筋が寒くなった」というデータを見る限り、因果関係ははっきりしているのではないか。

1. 浜通り（福島県太平洋岸地域）の68世帯との面談の結果

(1) 面談をした89%の世帯で、健康に異常が確認されていました。

(2) 大人144名の内、以下の症状が確認されていました。

甲状腺の異常（8名）、甲状腺に嚢胞が見られる（5名）、頻発継続する空咳（6名）、頻発する発熱（4名）、頻発継続する咳痰（3名）、季節外れの鼻炎（3名）、突然声が出なくなる、ハシモト病、流産（以上2名ずつ）、長く続く胃腸炎、体の痛み、甲状腺癌、視神経炎症、頭痛、糖尿病の悪化、白内障、頻発継続する鼻血、不整脈（以上1名ずつ）。

(3) 子ども150名の内、以下の症状が確認されていました。

鼻血（43名）、甲状腺A2判定（34名）、頻発継続する空咳・喘息（27名）、皮膚疾患（24名）、顕著な体力低下（15名）、季節外れの鼻炎（11名）、頻発する発熱（7名）、頻発継続する口内炎（6名）、頻発継続する頭痛（6名）、甲状腺B判定（5名）、手足口病（5名）、肺炎（4名）、足の痛み（3名）、中耳炎（3名）、爪に異常（3名）、頻発継続する腹痛（3名）、産まれてすぐ鼻水が詰まって呼吸困難になる、おねしょがぶり返した、頻発継続する首の痛み・しこり、継続する目の下の隈、精巣の奇形（以上2名ずつ）、足の裏のひどい痒み、足の奇形、胃腸炎、下痢、視力低下、赤血球不足、のどの痛み、徘徊、白血病、貧血気味、不整脈、マイコプラズマ、まぶしがる、目がかゆい、ものもらい、夜中に奇声をあげる（以上1名ずつ）。

水俣公害の時、チッソ工場からの排水と病気との因果関係はないという学者たちの発言によって、水俣病の治療が遅れ、大きな悲劇を生み出すことになった。福島健康異常が水俣病の二の舞にならないように、早期の検査と適正な治療をするべきである。

米空母ロナルド・レーガンは「トモダチ作戦」と称して、3・11後の被災者を支援した。その空母の乗組み員の2人が死亡し、2,000人近い米兵に健康異常が起こった。被曝が原因であると、250人ほどの原告が東京電力に賠償を求める訴訟を起こしている。空母にそれほどの被害を与えたのならば、福島にはもっと大きい被害があるのではないかと思う。放出した放射線の量に違いがあり、飛散した方角による差もあるだろう、空母がいた位置についても諸説がある。裁判で因果関係をはっきりさせてもらいたい。

東京電力の責任者3人を被告とする刑事裁判がようやく始まった。原子力メーカーに事故責任はないとすることは納得できないとメーカー責任を認めさせる裁判も始まっている。福島原発の廃炉も全く見通しがついていない。現在の科学では処理できない「核」を扱うことを止めて、電力は自然エネルギーに代替させるべきである。人間は将来の人々に時代を託すのである。今が良ければ良いではなく、明日につなげる伝達者として、責任ある知性と行動が求められている。